



三瀧信邦教授退官記念号の発刊によせて

三瀧教授が、本学の前身である東京教育大学に昭和二十四年に就任されていらい、今日まで三十有余年、本年四月一日付で停年退官されることになりました。この長年にわたる本学の研究・教育両面での教授の絶大なご尽力にたいする感謝の意をこめて、ここにささやかながら、退官記念号を発刊する次第です。

三瀧教授は、社会科学の分野が学部として独立しておらず、わずかに文学部内の一学科にすぎなかった東京教育大学の時代から、社会科学の充実と発展のために努力されましたが、とくに筑波大学の社会科学系・社会学類の創設以降は、昭和四十九年からの九年間に学系長一期、学類長二期の合計六年間にわたって要職に就かれ、草創期の学系・学類の基礎固めに余人の追隨を許さない、大きな功績をのこされたことは、広く学内に知られた事実です。そして、この間、教授の生来の身についたフランクで公明正大な人柄は、教職員・学生などたくさんの人びとの信頼と敬愛を一身にあつめてこられました。

研究の専門分野は、社会統計であり、別掲の業績一覧からも明らかのように、官庁統計を事実にもとづいて批判的に検討し、その真に意味するところを追求するという、比較的に地味ではありますが、現実にはひじょうに重要な研究分野といえます。これまでも方法論から各種実証分析まで幅広い範囲にわたって多くの業績をあげられており、また、日本統計学会や経済統計研究会で活躍されてきたことも、研究者の間ではよく知られています。近年は、とく

に経済統計における統計分類について批判的研究をつづけてこられ、近く、これまでの研究成果を集大成する書物を出版される予定、とまうかがっております。

さいわいにも教授は、今日すこぶる健康であり、その柔軟な思考力と強い探求心とは、若かりし時代と比べても少しも衰えを感じさせません。今後、ますますのご活躍を期待してやみません。

社会科学系長 荒

秀